

四万十町

大正町森林組合集成材工場



『100%捨てられていた 木を 100%有効利用』

- 活動時期 → 月～土曜日
- 活動場所 → 集成材工場
- 主な活動メンバー
職員のみなさん 23名

■木の製品を作ること、使ってもらうことが荒れてゆく森林を生かす手立てになる

(取り組み内容)

◆「集成材」は切って貼っての繰り返し

集成材の「材」として活用しているのは木の“もとだま”（木の根元近くの曲がった部分。木は斜面に垂直に伸びるため根元は曲がる）そのままでは製品にしづらく、今までは100%山で捨てられていた。

その材を切ったり貼ったりを繰り返し「集成材」にする。これにより捨てていた木を 30%有効利用できる。残りの70%も乾燥の際の「バイオマスエネルギー」として活用している。

間伐された木は、山で放っておくと腐る過程で CO2 を排出する。それを炭素固定させる意味でも、集成材の加工技術を取り入れ製品化している。

H18 年度高知県リサイクル製品認定制度にも認定される。

◆「結の森」プロジェクト

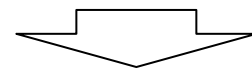
H18 年よりコクヨ（コクヨ株式会社）と連携してモデル林 100ha を設定し、森林整備を始める。H 19 年には「協働の森づくり事業」のパートナーズ協定を締結。また約 1,000ha で FSC（※）の認証を取得。

この森を「結の森」と名付け、以後エコツアーや、地元高校や大学との連携でモニタリング調査など行う。

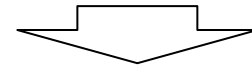
またコクヨの通販カタログで製品を扱い、環境と経済の好循環モデルの確立を目指している。



間伐材



大正町森林組合集成材工場



集成材

■FSC 森林認証とは

違法伐採で採られた材と、責任ある森林管理から生まれた材を見分ける為に考案されたシステム。もともと先住民族、希少動物の保護、生息環境を守る WWF 主体。森林管理のうえで間伐ひとつとっても、動植物の生態系を壊さない適切な間伐が行われているかという視点で検査。森林管理の認証（FM 認証）と加工流通過程の認証（CoC 認証）からなり、認証された製品には FSC のロゴマークがつけられる。山から、加工、売るところまで、どっからでてきたがわかる仕組み。

◆集成材ができるまで

- ①山で切られた丸太を製材。
→30~40cmに切って揃える。
- ②おがくずを燃料にした装置で材を乾燥させる。
- ③ジョイントさせて板状（ラミナー）にする
- ④切ってそろえてを繰り返して貼り合わせる。
- ⑤プレス機にかける。
- ⑥やすり機にかけて仕上げる。

→ → 加工品工場にて製品へ

◆取り換え・修理のできる製品

ここで作られる製品はシンプルで、取り換え・修理ができる。大量生産、大量消費の中であふれた身の周りのものを、少しずつ木のものに変えゆくだけで、ぬくもり・味いのある空間ができあがる。また、オーダーメイドで行う製品づくりなので、実用面での要望に柔軟に対応することができる。

【製品例】

- ・オフィス、学校、保育園などの机や椅子
- ・学習机、ベット、木製おもちゃなど

◆集成材でできたコクヨの製品

大量生産、大量消費をやめて、ユニバーサルデザイン、FSC の認証を受けている森林の木材資源を利用することで、環境や地域社会に配慮した製品づくりをする。

H15 年からコクヨ通販カタログにて販売し、加工者側もお客さんにより近いところを感じてもらう。

製品は、机・椅子・オフィス家具（会議用テーブル・キャビネット・椅子）などなど。

こちら当然、シンプルで取り換え・修理ができる。



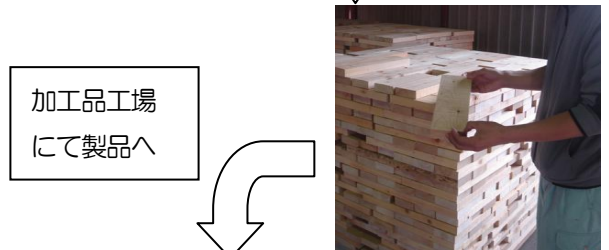
山で切られた丸太

- ・切って揃える
- ・おがくず乾燥
- ・ラミナー
- ・貼り合わせ



プレス機にかける

やすり機にかけて
仕上げる



加工品工場
にて製品へ

